

久松染

秋廻七草

二



~ 13

3393

2

5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50

卷之
 釋
 頤
 之

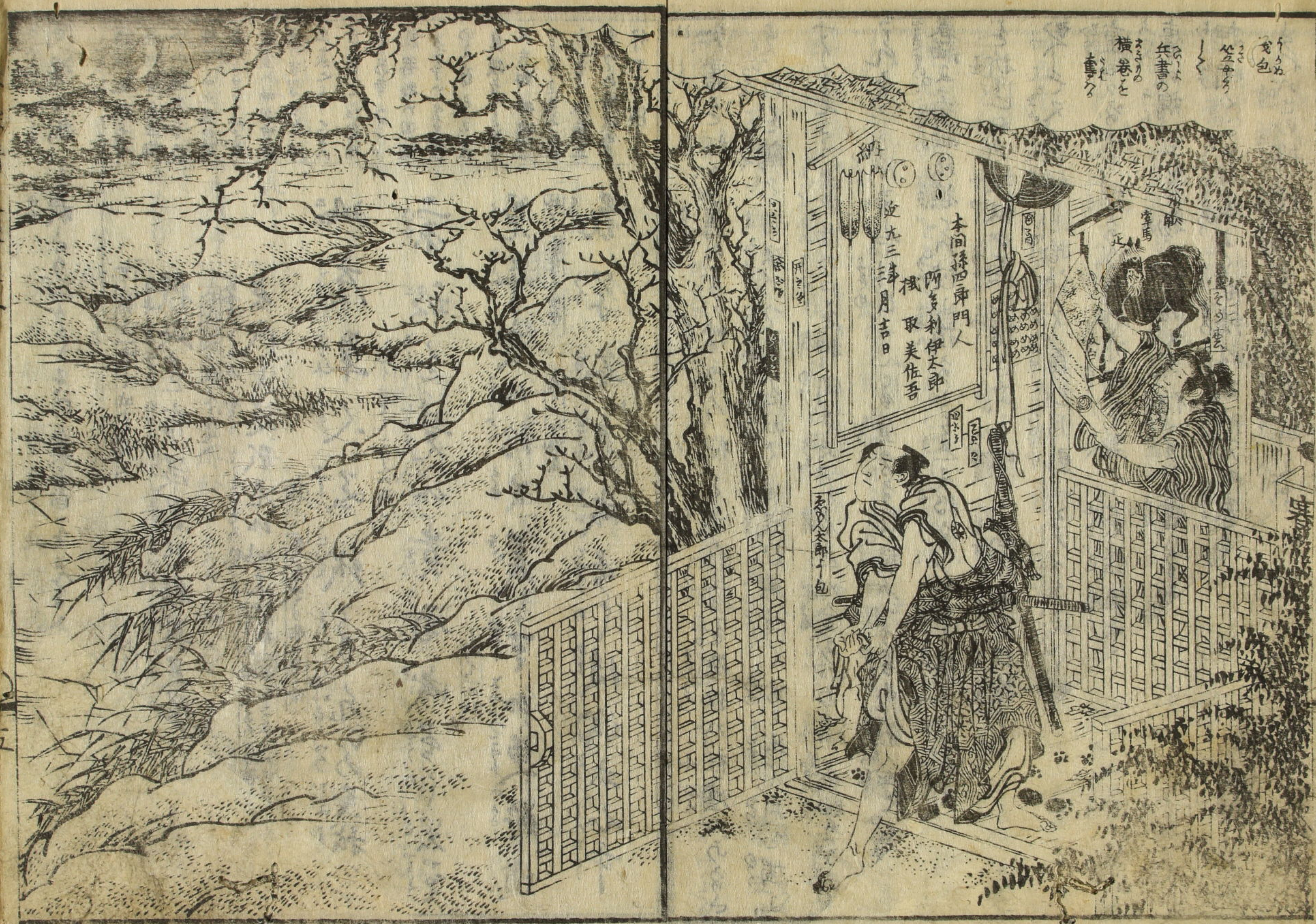
審み聞食くぞ在るさ。とま信づらくすえぬまば氏清めて。
眉を頻め。あゝ意もゆね。それ前夜家録し。件の兵書を求め
おもひなり。そのめいなる打粉し。年を齡へくつむる
あぐみり。と向ふは老兵ゆき疑ひ惑ひ。彼人内へ入る。は楚と
いんとめゆの松ど。尾花宅の馬ふき。主の将倉の打粉し。後者
まも俱せど。只一騎。手あけ。櫓の櫓太のを挟む。背ふ
櫓箭を負く。腰あけ。櫓鹿の櫓勝をせり。その声音をきく。
年の齡。四十あき。ちやあきん。物のいひ。耳熟し。人のく
るじ。といふ。氏清の怪。あぐ沈吟し。その千叙破の城の間
者る。とむ。あき。とむ。和田正武が家録し。彼が城中へ入る。
は。櫓のめい。あき。とむ。あき。とむ。右衛門太郎とやんか。櫓井の一袖

を盗と去る。豫く正勝兄弟。和田正武は志をく。ふしを
あき。とむ。あき。とむ。油断とむ。とむ。とむ。驚嘆し。かて諸方の
手配し。とむ。とむ。城中をうち巡る。交野の城を守る。善高へ謀
あき。とむ。防禦等。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。
あき。とむ。正勝の遺命。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。
あき。とむ。小傑の山里。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。
あき。とむ。正勝へ奉公。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。
あき。とむ。放光忌。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。
あき。とむ。追薦町。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。
あき。とむ。正勝。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。
あき。とむ。遺命。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。あき。とむ。

新扮つ。朝もえは旅宿をもち出件の時よ其刻に大門の母を
徘徊し。今くくくく。正勝も正元也
指末もえ。正勝も正元也。南朝のふん歌となつていふ。後同を
憚りく。糸指しもえぬや。とりふ。ふ。本意なり。あつて行ふ
日の短く。ぬきく。撞はあふねど。山寺の撞の音も。それなり。
似たり。い。退きん子なり。その子の母は待て。牙なり。只ひとり
僑居も。ふ。臥座の夕鳥。のめ。あふね。と。天うら。仰ぐ。立在ぬ。
こ。そのあふね。右。志。太郎。の。編。笠。ふ。は。く。く。小。深。へ。く。ま。ぬ。
ふ。本。え。ぬ。山。の。麓。や。ぬ。ま。ぬ。頃。も。冬。の。初。め。ぬ。ば。ふ。だ。れ。が。ら。る。雨。の。ふ。
小。翠。微。より。雲。を。吐。く。風。え。俄。頃。は。吹。変。り。や。暮。ね。ぬ。も。い。と。聞。く
あ。つ。く。く。降。る。く。驟。雨。は。憑。心。木。の。下。も。落。葉。し。く。坐。や。る。其。く。も

あ。つ。ね。バ。雨。の。袖。を。巻。揚。つ。袴。の。袴。高。く。き。く。直。走。ま。い。る。雨。風。雨
あ。つ。く。烈。く。く。笑。ひ。戴。る。ま。ま。か。臺。輪。の。を。残。し。く。往。方。も。く。く。ど
吹。断。離。ら。ぬ。水。田。を。流。る。氣。の。と。尾。を。引。頭。を。抱。へ。苛。く。山。や。く。く
る。光。倉。の。内。へ。き。く。入。り。一。息。吻。と。つ。れ。く。雨。水。あ。つ。く。髪。の。毛。を。掻
揚。げ。頂。は。被。る。様。井。の。巻。袖。を。濡。さ。く。く。や。を。く。襟。を。く。く。く。く。く
ま。つ。鰯。口。の。緒。は。著。し。る。布。り。く。濡。手。を。押。拭。ひ。あ。づ。く。く。巻。袖。の。紋。を
き。く。外。く。く。く。綿。の。裏。へ。湿。り。く。く。内。中。の。微。ら。く。く。海。く。く
安。堵。く。その。中。備。る。繪。馬。の。灯。は。掛。れ。裾。も。袂。も。結。も。揚。ぐ。水。の。き
る。き。く。度。く。く。紋。り。捨。る。寒。さ。の。年。の。終。り。も。巻。ぐ。く。く。く。く。く
く。深。山。辺。の。古。祠。の。神。燈。し。く。く。く。の。も。く。く。日。の。い。く。く。く。は。暮。果。て
所。の。脚。中。細。や。り。ぬ。維。く。く。く。の。光。倉。の。漆。松。が。寝。坐。し。て。已。明

うらぬ
包
父
兵書の
横巻と
書



本間孫四郎門人
阿多利伊太郎
撰 取美佐吾
近江三津月吉日

表の人物一包

并

七

卷之二

うの格遣はるゝが在りて
正新がかうな名と云ふ

と流ながれををりしむ。大おほく驚おどろき。昔むかし時とき先せん君くん揚やう明めい溪き
河か少すくく。封ほう死しの前まへ日ひ。揚やう井けいの驛えきより。嫡ちやく子し正せい外がい
故こ郷きやうへへく。身みををりしととくややりしん再またと老らう黨たう
隼しん人にんををりしく。遺い書しよは紀き念ねんの二に種しゆををりし派はい
贈くわうとままくくと又またの物もの結むすははままるるははままるる。ままるるれれ
るる巻まき軸ちくの揚やう井けいの兵へい書しよををりし。件けんの武ぶ士しの改かう乃のう

憤は堪ねども。彼ハ久しく和田正武は仕く。龍泉の城中はあれハ。兼
換らまゝの巻軸を。そり復さんと容易かゞ。べり。謀る。ごん。と。你。念。て。
その日のいづれハ。旅宿はまぬ。難居兵隊は近づくべん。方便もく。
とく。起る。かり。ひ。臥し。て。慮。ひ。頻。又。首。を。病。ら。ふ。名。の。こ。ハ。け。し。
兵隊を怒らむ。と。龍泉の城外は起臥し。その土居を張る。彼を
怒る。捷徑を。と。や。や。計。畧。を。定。め。俄。頃。は。旅。宿。を。あ。け。し。
面。あ。の。漆。を。塗。く。い。く。刃。を。鑿。し。牙。の。拷。の。蔽。衣。を。被。て。野。臥
の。食。は。打。扮。龍泉の城下は到り。並木の松蔭は起臥し。さく
その年。由。空。く。暮。し。春。由。三。月。の。う。ろ。は。り。く。九。百。日。あ。り。を
疎。く。し。う。が。果。く。城。中。の。奴。隸。ども。あ。る。夕。る。出。入。り。る。毎。日。これ
を。憐。れ。食。の。謁。る。魚。の。餘。る。あ。れ。ば。う。ろ。く。び。り。く。出。く。右。衛。門。さ。き

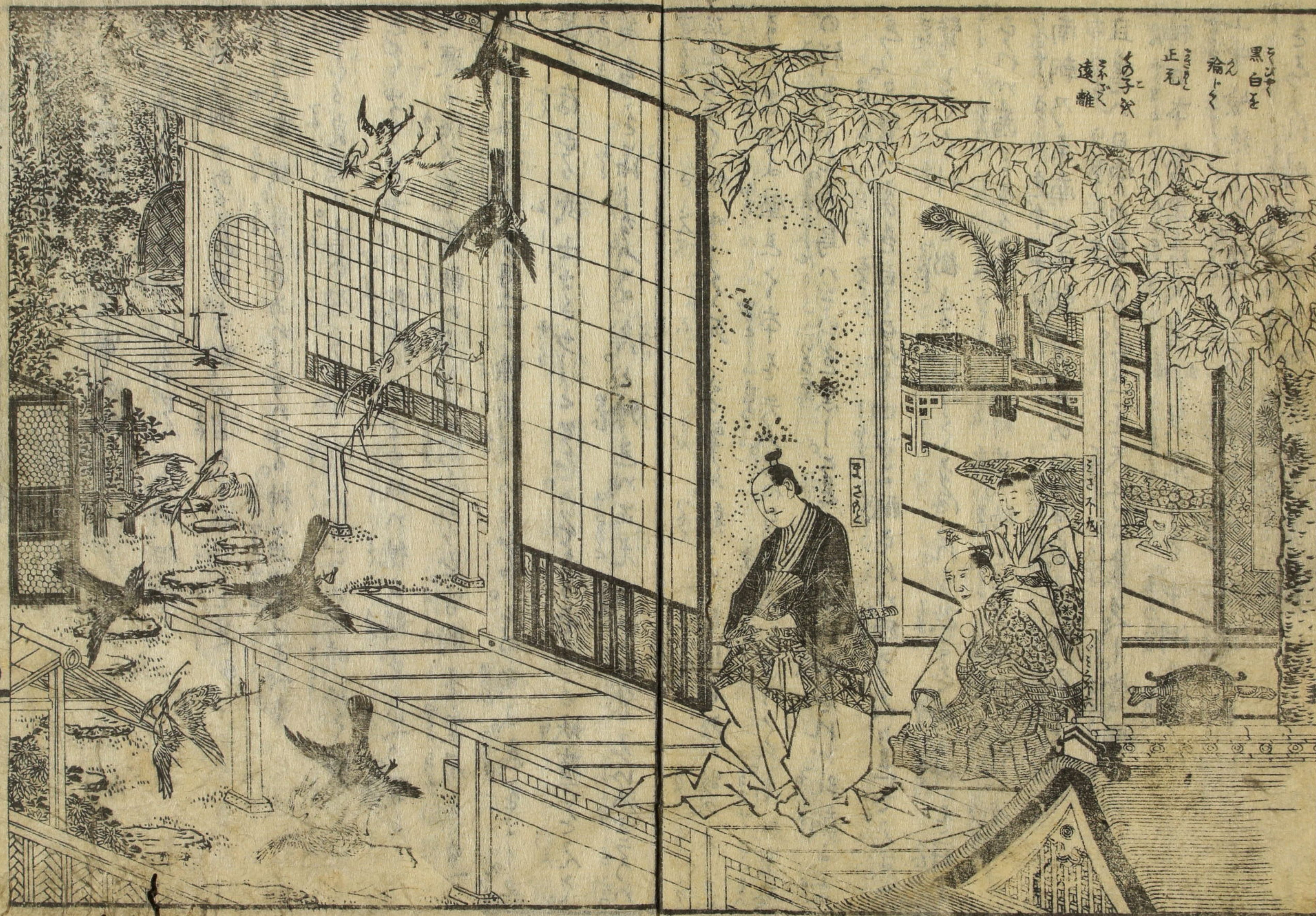
は。食。せ。り。右。衛。門。太。郎。ハ。の。便。宜。を。知。り。右。一。日。多。難。る。奴。隸。は
對。ひ。の。ま。く。の。ど。殿。さ。の。庇。を。棄。て。露。の。下。を。寝。る。べ。し。
さ。う。な。使。侍。さん。和。田。の。内。あ。く。難。居。兵。隊。と。あ。は。れ。し。
は。う。づ。情。ふ。る。を。豫。く。す。つ。かん。身。ハ。彼。兵。隊。ぬ。く。使。は
る。人。あ。い。在。さ。や。と。同。く。奴。隸。さ。く。さ。か。は。う。ろ。く。人。は。の。ど。
汝。が。い。ふ。當。家。の。老。臣。夢。中。に。難。居。兵。隊。と。あ。は。れ。て。主。を。救。ひ
下。を。憐。れ。る。城。主。は。罷。ら。ま。僚。友。も。皆。さ。く。ま。ひ。し。つ。る。
故。あ。や。り。去。年。の。秋。階。び。く。赤。坂。の。城。へ。交。加。り。る。と。忽。ち。
發。覺。し。罪。科。脱。走。が。う。かり。ひ。も。ひ。ん。その。夜。さ。く。透。電。し。今。
在。知。を。さ。く。さ。く。と。内。室。ハ。城。主。の。息。女。の。初。く。在。る。か。乳。
母。さん。が。残。さ。く。さ。く。と。ま。く。と。その。餘。の。が。の。ど。ハ。養。猫。



投く翔去りて正元を返るを目送るに大に怪しむ。云の中いふ安ら
む。維くあやう。と叫ぶるまは。右弐王はさうと歎つ。今茲僅に
四方より。正元の嫡男。操丸を呼び抱えぬ。ほろろ近く来りぬ。
右弐王は楠普代の老黨より。姓は津積氏。字は窪六と唱へて。
さうへら操丸の乳母夫より。年の齡は四十の久し。六ツ七ツをう
むん。妻は近曾より。子もさうと。さう人をめりて愁ひと
せむ。君をさへ。自らみり。鳥く。そのあやう。後で肩を
比ぶるより。當下正元の津積有弐をえり。うは窪六は女
今の怪異をえつ。と句は窪六をえり。鳥の鳴く。置
置しを。郎君のえり。むづうひ。抱き進み。彼女の
縁類は立物。初よりえり。さう奇しき。と歎く。さう。

正元あやう。嗟嘆し。死し。學久熟うら目送。白た物の本を
さう。黒さ。壓と。本を失ふ。それる吉山。さう。南朝衰廢
の祥より。夫鳥は。黒。と。を四方に配る。北朝は當
り。又鷺は。白。それを四方に配る。西より。さう。
鷺。さう。州を銜る。死し。それを放さむ。西は州を冠
それる。萬と。萬。一名深緋草。物を深く深紅。赤は南方。三
南朝乃至南北兩朝。少年の争ひ。その勝敗を示さ。似る。
且鳥は日中の鳥より。さう。天子は象る。嘗聞人の代の首
神日本磐余彦天皇。皇軍。中洲。赴ん。山
山中嶮絶。復ゆる。乃棲遯。その政。人。さう。
さう。時。天照大神。夢。天皇。列。朕。頭。八咫鳥

黒白を
論く
正元
その子
遠離



津 審又耳緒バ。窪六々々々。果て次の日。ふのびく旅の用意を
いし。河内國 瀨良郡 野崎の 観音堂を守る生法師ハ。諸君。相
蔵するものるんバ。さきに賜く。方人とし。輝既よそのひぬ。さ
ふ八月。中。九月の月上旬。有。一日正えハ。津 積 窪六を。ひびく
いハ。やう。いん。頃。日ハ。又の喪。又。より。を。推。さ。り。の。い。と。後。終。り
堪。ぶ。い。汝。操。丸。又。俱。く。と。山。さ。せ。よ。小。松。山。の。茸。狩。え。ん。と。い
奥。の。い。と。仰。よ。と。バ。窪。六。う。け。め。り。く。童。扈。後。三。四。人。と。言。ふ。
操。丸。又。冊。さ。う。く。本。え。ぬ。山。の。さ。う。さ。う。れ。小。松。岡。又。赴。き。終。日。茸。狩
し。く。幼。き。主。を。慰。む。又。操。丸。い。と。い。の。い。げ。又。樹。間。立。階。を。わ。い
左。う。と。漫。然。あ。の。い。推。ハ。却。く。又。速。く。動。も。も。れ。ハ。窪。六。ホ
も。遙。又。後。つ。忽。地。又。見。失。ひ。ぬ。さん。ば。さ。さ。く。窪。六。ハ。う。さ。い。こ。わ

あ。う。と。慌。忙。童。扈。後。り。う。と。も。又。樹。の。蔭。葉。取。の。中。さ。で。喚。つ。叫。び
つ。尋。ね。索。る。又。教。由。り。日。も。い。や。向。暮。と。さ。る。ふ。さ。う。も。あ。る。こ。ま
あ。う。と。う。を。残。せん。あ。も。い。ひ。が。ひ。る。れ。童。扈。後。の。さ。う。れ。は。さ。非。り
城。中。へ。さ。う。あ。り。く。輝。の。親。を。狩。さ。う。り。が。正。え。大。れ。又。驚。れ。患
操。丸。が。失。う。と。う。生。死。も。あ。る。と。さ。ハ。己。ん。都。く。索。ね。う。と
い。え。さ。る。あ。う。く。下。知。さ。る。あ。ぞ。の。熟。る。老。黨。お。の。夥。兵。を。お。い
前。後。の。城。戸。う。さ。り。出。通。宵。さ。う。又。索。る。又。後。く。往。方。と。さ。さ
さ。う。う。

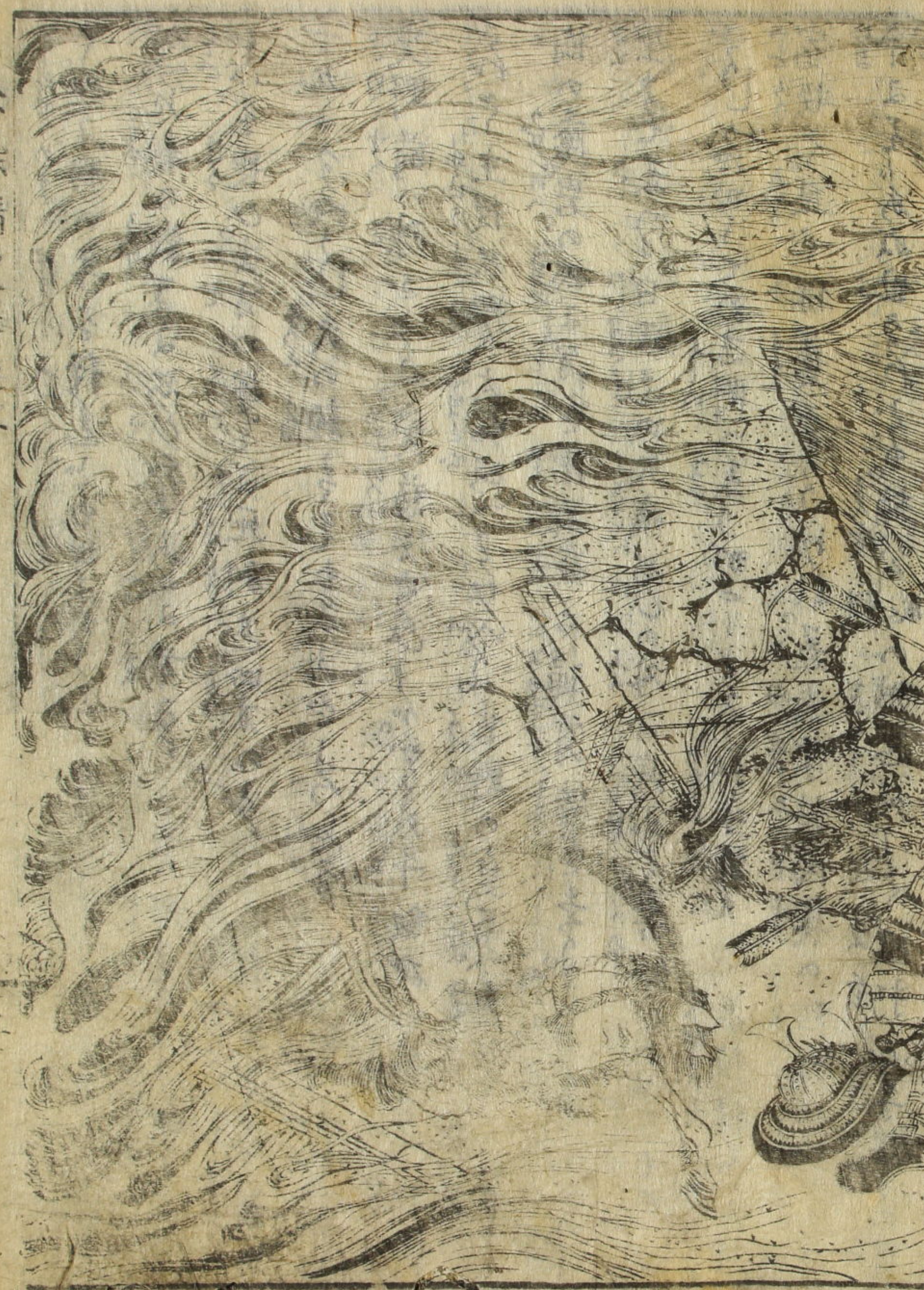
○ 第四 芒花より 袖振草

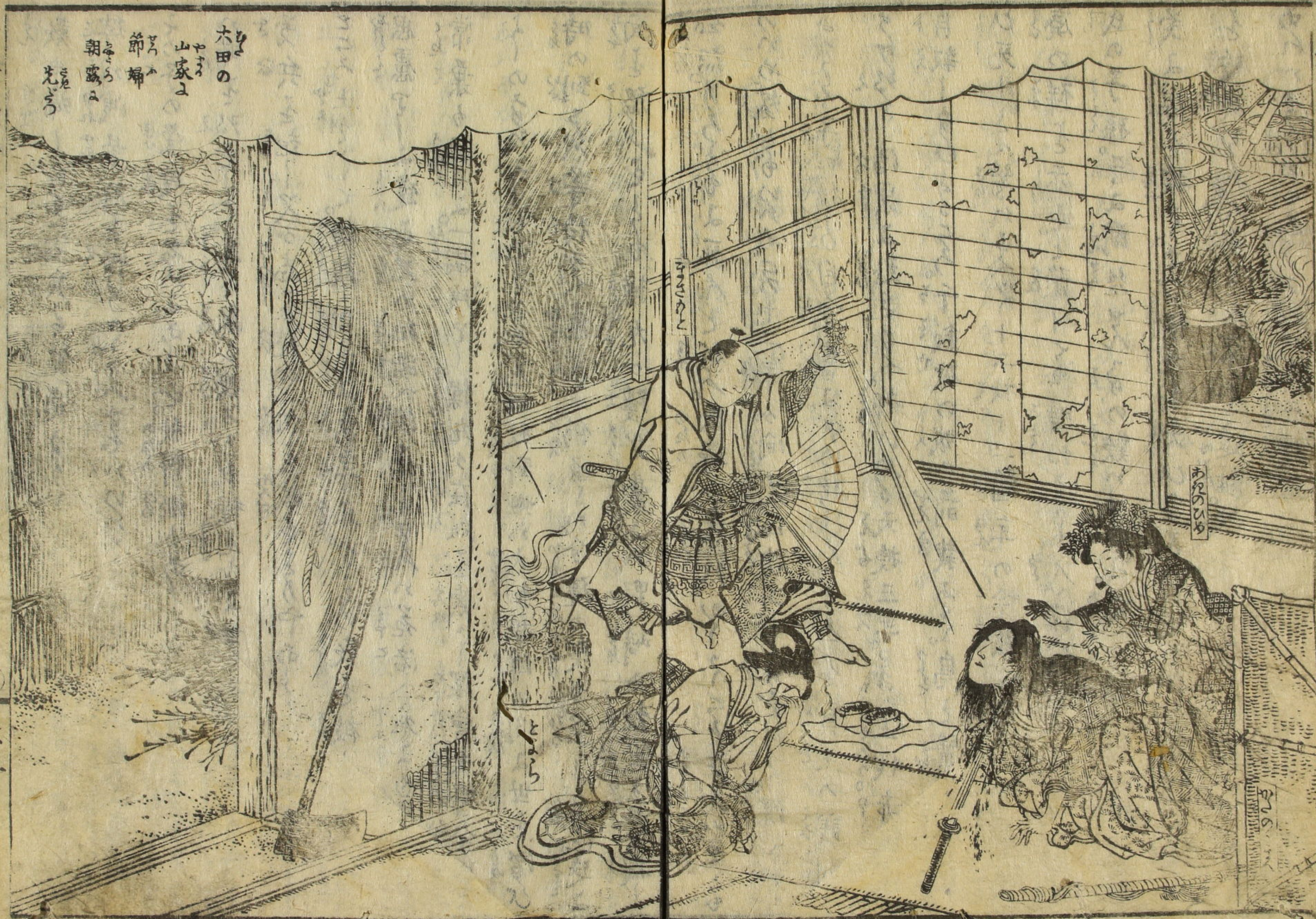
あ。ふ。り。交。野。の。原。を。さ。け。め。け。ど。袖。う。草。又。雉。子。啼
い。と。果。敢。さ。う。だ。う。ひ。の。世。い。れ。と。一。片。の。思。愛。の。雲

現る。操丸のり次托せり。窪六ハ。毎月主の代系し。野崎の親者又諸堂守の生道云々。愚直なるを。くくく。バ。野崎又。件の法師を。再世の庇を。主家。老臣何。子。僅四。母。憎。人。と。針。又。恩。子。救。と。牙。ふ。五。七。日。を。此。忍。ま。と。い。え。来。愚。直。の。業。門。を。実。を。深。憐。慈。悲。ハ。佛。の。本。人。を。助。を。出。家。の。推。辞。を。あ。見。を。奪。ひ。容。易。ト。毛。を。吹。疵。を。め。ん。み。罪。を。不。為。と。回。答。つ。連。累。に。窪。六。を。な。く。

そのりハ。安。九。月。某。の。日。ハ。五。人。の。童。と。り。件。の。稚。児。を。お。本。え。ぬ。山。の。西。の。園。に。移。せ。し。老。僧。の。く。た。萱。の中。に。わ。る。居。る。竊。う。れ。抱。き。き。り。久。侶。る。童。と。り。あ。と。と。後。に。経。を。獲。頭。る。も。老。師。を。連。係。さ。と。只。兩。三。日。の。日。と。費。し。た。り。その。功。徳。莫。太。と。り。さ。と。い。ひ。に。法。師。に。遂。に。贈。さ。る。窪。六。と。り。と。干。斂。破。と。り。本。日。の。暗。号。を。定。め。朝。に。は。小。松。が。園。に。到。る。叢。の中。に。牙。と。操。丸。彼。主。後。が。茸。持。と。り。を。張。ひ。と。振。操。丸。と。り。抱。え。通。宵。経。り。き。り。野。崎。へ。お。り。そ。ん。窪。六。が。音。耗。を。待。た。窪。六。と。り。し。と。罪。を。ぬ。罪。を。ぬ。千。斂。破。の。城。を。追。放。せ。し。直。に。野。崎。に。赴。け。り。件。の。法。師。は。う。

公孫氏之墓





大田の
山家
節婦
朝露
先づ

歎由痛しりほど。兵と筑道よりとり。謀ハ密なるそしと。と
緯ハ洩易れを憚り。ふすかひいさう。これ恩愛又慈闈て。
その子の榮達を思ふ。あつど。秋野姫もあくる。夢みひと。ふか兄才
ハ時を忍び。えを敵と授る。も。標九と。世と。年を。経
我兵を起し。又か志を。続ぐ。仇を。滅ぶ。や。あ。ん。と。心。孝。ふ。る
そこ。止。ぐ。て。親族。と。子。と。の。年。耳。の。歎。を。被。る。る。り。形。ハ
思慮。す。と。違。び。兄。ハ。紀。路。へ。没。落。し。と。ん。ハ。花。洛。へ。死。よ。由。く。千。枝。の
常葉。も。枯。く。よ。一。樹。残。り。標。九。が。在。ぬ。を。索。ぐ。環。會。夫。婦。全。聚。る
ふ。の。る。れ。や。も。あ。つ。さ。め。る。と。バ。秋野姫ハ大和根津の。例。又。世。を。潜。び。
時。の。到。り。等。待。り。産。天。は。偽。り。ハ。分。境。の。契。も。空。く。く。と。送。り
面。を。怒。り。ど。と。も。標。九。が。獲。り。囊。み。野。崎。の。秋。世。音。と。擬。し

と。る。像。あり。今。や。秋野姫。志。紀。の。田。比。沙。門。天。の。小。像。を
忍。び。さ。ぐ。る。と。ん。ハ。祖。父。正。成。幼。稚。より。ふ。く。信。じ。く。慈。驗。と。云
ふ。る。る。ふ。ん。世。の。人。の。ふ。れ。ふ。る。夫。婦。再。會。割。符。あり。と。云
ふ。と。の。や。め。る。と。ん。ハ。法。華。經。普。門。品。の。要。文。又。礼。拜。供。養
觀。世。音。菩。薩。便。生。福。德。智。惠。男。設。欲。求。女。使。生。端
正。有。相。女。宿。植。德。本。衆。人。愛。敬。と。云。又。賢。愚
經。ふ。ハ。有。優。婆。夷。誦。經。毘。沙。門。天。從。空。而。遇。乃。曰。師
妹。我。与。汝。宝。物。可。請。舍。利。弗。奔。當。得。勝。福。と。云
ふ。と。ん。ハ。智。の。及。ぶ。る。と。ろ。ハ。人。の。才。を。借。へ。人。力。の。及。ぶ。る
と。ろ。ハ。神。佛。の。冥。助。を。仰。ぐ。と。豐。浦。ハ。雄。く。と。云。操。の
り。の。ろ。り。秋野姫。を。扶。掖。く。主。役。い。く。を。窶。し。法。隆。寺。

のめづる。活ふ。彼寺ハ。楠氏ハ舊好あり。密ニ住持ヲ憑ミ
穿えり。ふ。の隠家ともなりぬべし。と。逆の峯入
せし。山伏ニ打扮す。直ニ華洛へありけり。と。ろ。ろ。
や。と。色。彼。又。鏡。示。し。頂。又。被。さ。る。獲。身。臺。を。こ。り。外。
秋野姫より。と。を。授。け。や。軍。要。又。貯。録。す。れ。金。二。色。と。
ろ。出。く。と。と。を。と。豊。浦。又。遍。ふ。り。秋野姫主後ハ。に。
め。く。縁。由。を。さ。す。あり。が。た。や。い。く。赤。く。世。ハ。憑。り。た。か。れ。か。
と。と。と。互。ハ。結。ぶ。ぬ。操。九。ふ。あ。日。を。い。つ。と。定。め。る。た。人。乃。
命。ハ。槿。花。の。夕。を。ま。と。ぬ。姑。母。前。で。え。く。存。命。あ。ひ。る。名。告。
あ。ふ。ふ。と。か。も。あ。ふ。ん。今。と。ろ。ろ。い。く。る。月。奉。意。あ。れ。別。り。
と。と。ろ。ろ。れ。は。ろ。ろ。実。は。り。ち。り。と。呼。活。ら。と。ろ。交。野。前。

や。や。み。眼。を。開。け。緯。の。や。う。ハ。さ。う。ぬ。今。般。又。と。と。ろ。ろ。子。
の。存。亡。その。物。語。を。千。僧。の。読。経。に。ま。じ。り。罪。う。た。迷。ひ。の。雲。を。吹。
ろ。ろ。ろ。驚。の。き。峯。へ。帰。り。た。吉。野。と。い。ハ。紙。難。い。夫。婦。が。半。く。と。
未。期。の。水。と。り。受。ぬ。る。の。と。遺。憾。と。い。ふ。も。半。ハ。唇。を。動。と。と。ろ。ろ。
緯。断。り。と。覚。け。の。あ。て。も。堪。う。ろ。ろ。声。は。は。嫁。眼。は。泣。男。あ。い。か。
と。と。便。う。と。と。励。を。乳。母。の。袖。に。ぐ。と。千。劍。破。を。き。く。神。を。月。六。
田。の。山。川。水。流。く。石。は。名。を。書。亡。魂。を。導。け。り。人。救。世。圓。通。
煩。悩。苦。提。種。々。門。天。教。の。宝。も。眼。前。男。の。情。を。お。り。載。く。
路。費。は。物。の。缺。け。も。世。を。濁。る。旅。と。死。出。の。旅。道。と。と。ろ。ろ。
首。途。ハ。経。惟。子。は。禪。衣。に。髪。と。兜。巾。の。假。山。伏。女。道。者。の。
ろ。ろ。回。向。旅。の。ろ。ろ。ハ。縁。被。の。縁。少。ハ。あ。い。ぬ。亡。體。を。と。と。ろ。ろ。

林漢作男

隠々々々。芒花が末の野葬。哀々々々。さうさうさう。

松條情史秋七草卷之二

森先生著

洋算學

一名早合點

金壹冊

伴新雲撰

此書ハ西洋算術の諸一數字記号九々此合數一々加減乗除一々至る各々の用法を懇々示し、又問題各種を舉げ別々其答式を附録し、又頗る深切に手とて教ゆが如し、實に洋算早合點の要なり。

森先生著

